

## 平成31年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立大詫間小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

平成31年4月18日(木)

### ■ 調査の対象学年

小学校6年生

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### ■ 調査結果及び考察について

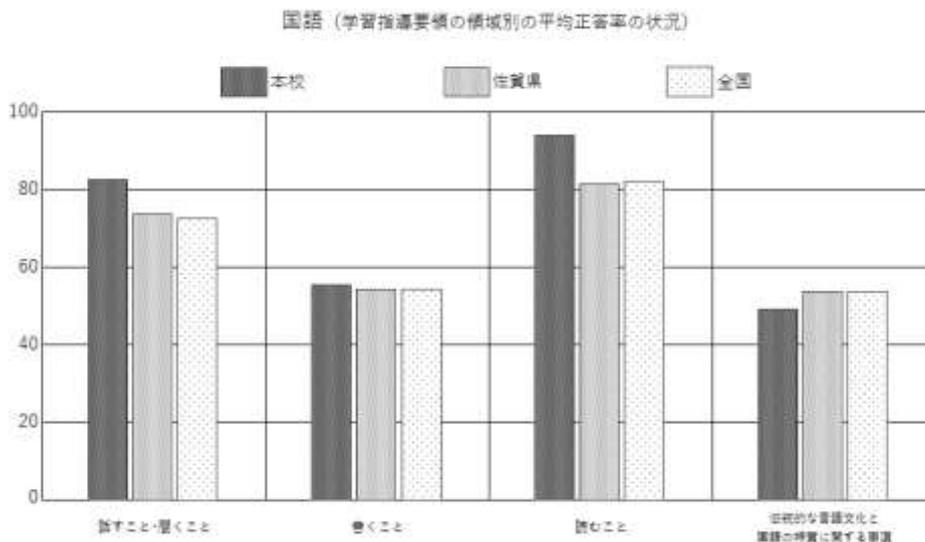
全国学力学習状況調査は小学6年生(中学3年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数(数学)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

## ■調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果

#### 全国・県正答率との比較



#### (2) 成果と課題

##### 話すこと・聞くこと

すべての問題（3問）で全国平均を上回りました。必要な情報を得るために、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる力がついてきています。さらに、インタビューをする際に、自分はどのような情報を求めているのかや聞いた内容をどのように活用しようとしているのかなどを明確にして聞くことができるよう、児童がインタビューに必然性を感じるような場の設定やインタビューの成果を生かす場の設定を工夫していきます。

##### 書くこと

すべての問題（3問）の平均は全国とほぼ同じでしたが、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題が難しかったようです。自分の考えが相手に伝わるように書くために、事実と考えを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることを指導していきます。また、調べ学習の際などに資料を引用してまとめる方法や効果についても指導していきます。

##### 読むこと

すべての問題（3問）がほぼ正答でした。目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む力がついてきています。さらに、文章に書かれている話題、筆者の考えとその理由や事例となっている内容、構成の仕方などに注意しながら、表現に即して重要な点を的確に押さえて読むことと、自分が読む目的を整理し、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にしていくことができるよう指導していきます。

また物語文等では、言葉のもつ意味や描写からイメージを膨らませ、自分が感じたことを交流する場を増やすなど、文学作品の世界に迫るような学習を進めます。また、豊かな感性を育むために読書指導にも力を入れていきます。

##### 言語事項

すべての問題（5問）の平均はやや全国を下回りました。その中で、文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く問題が難しかったようです。読み手に分かりやすい文章を書けるよう、文章を書く様々な機会を捉えて、文脈に沿って接続語の役割を理解するとともに、接続語を使って文を分けて書く指導を行っていきます。

また、漢字の同音異義語については、同じ音からいくつかの熟語を思い浮かべ、それぞれの意味を考えて文脈にふさわしい熟語を選んで書くなど指導を工夫していきます。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 火曜朝の時間に「スピーチタイム」と「すらすらタイム」を設定しています。「スピーチタイム」では、自分のテーマで原稿を書いてスピーチを行い異学年での感想交流を行っています。スピーチタイムの中で、話し方・聞き方の基本的なスキルを指導しています。「すらすらタイム」では、テーマ別の作文や条件にそった文章を書く活動や語彙を広げていく活動を行っています。
- 学校行事の後に作文や日記を書くことで、自分が体験したこと・感じたことを表現したり伝えたりする力を伸ばします。
- 全学年で、授業に話し合い活動を取り入れています。自分の考えや感想を言葉で表現し、お互いの意見を交流する場を設定しています。きちんと相手の話の主旨を捉え、それに対して自分の意見を表現できるコミュニケーション力の習得をめざしています。
- 全学年で、朝の読書（さわやか読書）、読み聞かせで本に親しむとともに、落ち着いて学習に臨めるようにしています。図書室の横の児童の貸出数がわかる掲示板の工夫や、多読賞（60冊達成）の表彰など、児童への読書の奨励を行っています。

#### 【ご家庭では】

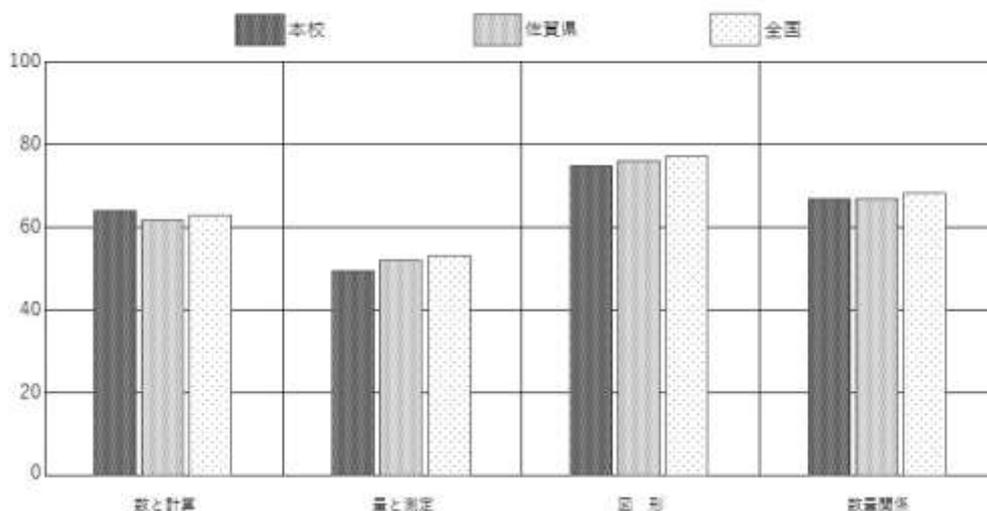
- 子どもたちの音読を毎日聞いてください。声に出して繰り返し読むことで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。低学年の頃から、音読の習慣をつけることは、とても大切です。また、文章を読むことで要点や意味を捉える力が高まります。国語科だけでなく全ての教科の学力向上につながります。
- 子どもたちと話をするときは、聞くときは最後まできちんと聞き、話すときは語尾まではっきりと話しましょう。その日の出来事について話をすることで、共感したり、根拠をたずね合ったり、お互いの考えを交流し合ったりする機会が増えます。親子でコミュニケーションをとりましょう。また、日常生活において、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことにも慣れさせてください。
- 年2回（6月、10月）、本校の図書室で取り組んでいる読書週間に合わせて親子で読書を楽しみ、読むジャンルを広げてあげましょう。文学・歴史・科学・地理・芸術・・・いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

## 2 算 数

### (1) 結果

#### 全国・県正答率との比較

算数（学習指導要領の領域別の平均正答率の状況）



## (2) 成果と課題

### 数と計算

すべての問題（7問）の平均は全国とほぼ同じでした。しかし、加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができるかどうかをみる問題、示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題、示された除法の式の意味を理解しているかどうかをみる問題の正答率がやや低かったです。必要に応じて、それぞれの式が何を表しているかを振り返り、式の意味について理解を深めることができるように指導していきます。

### 量と測定

すべての問題（3問）の平均で全国をやや下回りました。示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題、グラフの特徴や傾向を読み取り、量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率がやや低かったです。授業では、児童自身がこれまでの学習内容を生かして問題に対する解決方法を見だし、自らの考えを言葉や式や図を使って表現する力がつくよう指導を工夫していきます。

### 図形

これもすべての問題（2問）の平均では全国をやや下回りました。しかし、台形についての理解をみる問題はとてもよくできていました。図形の性質や構成要素に着目し、様々な平面図形についての理解をみる問題の正答率がやや低かったので、授業では、具体物を用いた操作的・作業的な活動、実際の数や量の大きさを実験・実測するなどの体験的な活動を重視して意味理解を図っていきます。

### 数量関係

すべての問題（7問）の平均はやや全国を下回りました。示された情報とグラフを関連付け、解釈し、それを言葉や数を用いて記述することや、複数のグラフから読み取ることができることを適切に判断することに課題がみられました。グラフの読み方の学習を充実させていきます。

## (3) 学力向上のための取り組み

### 【学校では】

- 問題場面の解法を考える際に、前に学習した方法や内容で使えることがないか振り返りながら、できるだけ児童自身が解決方法を見いだせるようにしていきます。
- 具体物を用いた操作的・作業的な活動や、実験・実測などの体験的な活動を重視し、児童自らきまり（公式等）を見つけることができるように促し、実感を伴った理解に導きます。
- 具体物、図、式、表、グラフなどを使って言語化させ、考えを伝え合うことで、自分の考えを確かめたり広げたり深めたりするようにしていきます。
- グラフの読み取りなど、授業での基礎・基本の徹底と共に、他の教科内容（例えば、社会科でのグラフの読み取り）と関連づけて、基礎・基本、活用力が身につくように指導します。
- 四則計算は、「使いこなせる」まで力を高めることができるように、プリント、ドリル、家庭での課題などの日々の指導の中で、個々のつまづきを早めに見つけ、個別指導や補充指導に努めます。

### 【ご家庭では】

- 子どもさんが意欲をもって宿題に取り組んだり、学校で学習したことを復習したりするように励ましの言葉かけをお願いします。もし、つまづきに気づかれたら、連絡帳で知らせていただいたり、ご家庭で教えていただいたりすれば幸いです。
- 学習を生活場面に活かす声かけ、手助けをお願いします。（例えば、おかしの数をかけ算で数えたり、新聞等に示されたグラフを話題にしたりするなど）子どもさんが「習ったことが生活の中で使えて便利だな！おもしろいな！」など、「算数の便利さ」「算数のよさ」を生活の中で感じる場面があると、進んで学習に向かう力が身につきます。

## 4 生活習慣や学習習慣に対する調査

### (1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
平日同じぐらいの時間に起きる。(どちらかといえばしているも含む)	66.7	91.6
平日同じぐらいの時間に寝る。(どちらかといえばしているも含む)	83.3	81.4
朝食を毎日食べていますか。(どちらかといえばしているも含む)	100	95.3
平日読書を10分以上している。	33.3	65.7
平日読書は全くしない～10分未満。	66.7	34.3

朝食を毎日食べていると答えた児童が100%であることなど、基本的な生活リズムは概ね身に付いているようです。しかし、毎日決まった時間に起床する習慣のある児童は、全国平均を下回っており、「している」と答えた児童が50.0%、「どちらかといえば、している」と答えた児童が16.7%という内訳になっています。58.7%が「している」と答えた全国平均に比べ、やや意識が低い傾向にあると言えます。

読書については、平日の読書時間が全国平均を大きく下回っています。読書よりもテレビやインターネットの視聴時間が増えてきていると考えられます。

《家庭学習の様子》

調査項目	本校 %	全国平均 %
平日2時間以上勉強をしている。(塾等を含む)	33.3	29.3
平日1時間以上～2時間未満勉強をしている。	50.0	36.8
平日30分以上～1時間未満勉強をしている。	16.7	24.1
家で、自分で計画を立てて勉強をしている。(どちらかといえばしているも含む)	83.3	71.5

学習時間については、平日に家庭学習を1時間以上している児童が全体の83.3%で、全国平均を大きく上回っています。本校が推奨している「10分×学年+10分」の学習時間が定着してきていると言えます。また、自分で計画を立てて勉強をしていると答えた児童も全国平均を上回っています。宿題が終わっても、自ら学習内容を考えて、自主学習に取り組もうとする姿勢をもつ児童が増えつつあると言えます。

### (2) 改善に向けての取り組み

#### 【学校では】

- 学習内容の確かな定着を図るために、毎日「音読」「漢字の書き取り」「計算プリントやドリル」を基本に宿題を出します。また、家庭学習の充実「宿題プラス1」を目指し、予習・復習や自主学習の仕方を具体的に示しながら、自主的に学ぼうとする態度を育てていきます。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」、「家庭読書の習慣」、「計画的な学習」、「テレビやゲーム」について、毎学期実施する「家庭学習がんばろう週間」の記録をもとに、家庭と連携をとりながらよりよい生活習慣の定着を図ります。
- 始業前の朝の読書を推奨したり、図書室の行事に参加するように促したりして、より読書活動が活発になるよう発達段階に応じた手立てを講じます。

### 【ご家庭では】

- 毎日、同じぐらいの時間に就寝・起床することで生活のリズムがつくられますので、ご家庭で就寝時間・起床時間を決めて取り組みましょう。子どもたちが自分の力でできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識がさらに高まっていきます。これからも子どもたちの規則正しい生活習慣の定着にご協力をお願いします。
- 家庭学習につきましては、質の向上を目指していくことも大切です。学習をする場所を決める、テレビなどを消し、静かな環境を与えるなどご家庭で取り組んでいただきたいと思います。
- 読書活動をすることによって、読解力や表現力の向上につながります。ご家庭で一緒に読書をする時間を設けるなどして、読書をすることが習慣になるようにしましょう。